

本学と岩槻人形協同組合の産学連携により、岩槻発祥の「桂雛」が現代によみがえり、「かみしもどり」と商品名が決まり、販売開始しました。

「かみしもどーる」を さいたま市長へ贈呈

本学と岩槻人形協同組合は連携教育協定を締結し、商品開発を協働で行っています。今回、江戸時代に風靡した岩槻発祥「袴雛」の現代版の開発を実施することになり、学生がデザインを考案し、それに基づき着物の布地や柄、頭髪、小道具等についても様々な提案を行い、伝統工芸士の方々の協力を得て商品開発に挑みました。

今年3月、思考錯謬を重ねて開発した「新作袴雛」5体の制作発表会を岩槻区内で行い、併せてネットショッピングを同組合のホームページへリンクで一般募集した結果、

多数の応募の中から「かみしもどーる」に決定。6月1日の販売開始にさきがけて、経営学部の学生3名と、同組合の新井久夫理事長がさいたま市役所を訪れ、清水勇士市長に「かみしもどーる」5体を贈呈しました。

経営学部×北京理工大学 「転入学協定」締結



調印式の様子

本学経営学部と北京理工
大学外国语学院（中国北京
市）が6月19日、サロン・
ド・ブンキョウにて「転入
学協定」調印式が行われま
した。

文潔主任・教授、湯麗副主任・准教授、郭玉潔責任教授
【本学】島田昌和理事長・教授、櫻井隆副理事長・教授、絹川直良經營學部長・教授、池田芳彥GCIセンター長・教授、島田美紀GSIグループリーダー、洞下宇美同グネジヤー、

A portrait of Professor Toshiaki Miyazaki, a middle-aged man with glasses, wearing a suit and tie, set against a blue circular background.

川良徳弘

ループ職員
まず、島田理事長が本学の歴史や、企業とのコラボにより多くのプロジェクトが生まれ、学生が果敢に挑戦していくことなどについて話しました。

姜副院長は、同大学の歴史部では、4つの医療門職の人材を育成しています。理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、そして看護師です。

医療職種と非医療

院との交流も活発化。この調印式を迎えることになりました。

史や現状などに加えて、職種との違いは何で
調印式を迎えることの喜び
について語りました。

さんになります。教えられたとおりにできる、有用と言われてうれしいです。

大学 烏羽学科長 清華大学で講演

子
鳥羽学科長 清華大学で講演

その中では、2000年を背景に高齢者の介護問題が重要になってきています。より日本で開始された介

「発展論壇」)」(主催:清華大学科学技術と社会研究センター)が、5月18日(20日まで清華大学(中国北京市)で行われました。期間中で開催されたシンポジウムは、要介護高齢者の増加に伴つて、制度やサービスの必要性に迫られつつあるなかで、地方政府が各地の状況に応じた取り組みを進めている状態です。

その背景や現状、地域包括の背景や現状、地域包括認定基準と介護人材の育成を中心に、「として、制度の変遷と現状、要介護高齢者の増加に伴つて、制度やサービスの必要性に迫られつつあるなかで、地方政府が各地の状況に応じた取り組みを進めている状態です。

ポジウムに、人間学部人間福祉学科の鳥羽美香学科長・教授が、日本からのシンポジストとして参加しました。以下、鳥羽学科長のレポートです。

今回、日本と中国の30数名の研究者や実践者が、4つのセッションと特別講演を行い、高齢化における都市と農村の格差の問題、医療と養老事業の連携の課題について発表をいたしました。

また、20日には、ヤンダラ・スケアセンター（燕達色年華健康介護センター）

中国では、急速な高齢化
究発表を行いました。
題、認知症研究、養老口ボ
ット開発と応用など、様々
な視点から大変有意義な研
究発表を行いました。
という中国における超大
模「医養結合」型持続介
養老コミュニケーションの見
会も実施されました。



発表者と関係者一同

す。医療の名のもと
に行われる行為には、
目的とする効果だけ
でなく、好ましくな
い影響が付きまと
います。国家資格は医
療に携わる人の職能
を保証し、その医療
者に責任を負えます。
学生たちは、知識と
技術を身につけるべ
く学修します。基本
的・専門的、よく使
う・あまり使わない、
質的・量的、など様
々です。

段階を経て、病院
実習に参ります。患
者さんと対一で接
します。学んだこと
を目の前の人 自ら用いま
す。機器を扱います。それ
は大きな出来事です。それ

自分の面があるといわ
れます。誰にでもで
きて、一定の効果を
生み出す、限られた
サイエンス。個性的で
効果は不測で、そこ
にあるすべてを含む
アート。サイエンス
は共有され、アート
は継承されます。ア
ートはサイエンスの
使い方、汎用性のあ
る技術としてのサイ
エンスを含みます。
サイエンスの不備を
補い、新たなサイエ
ンスのきっかけにな
ることもあります。
若者たちがこれから
の医療を担うには、
やはり今ある知識・技術を、
感謝と批判精神を持ちつ
つてみるとしかないので

Green Spirits

人の役

人の役に立てる自分を実感

Green Spirits

高校

SGHアジア研究で空間力を学ぶ

本校は、文部科学省より「SGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト」の指定を受けています。課題研究のひとつ「SGHプロジェクト」では、グローバル・リサーチの一環で、国際教養コースの生徒たちが「アジア研究」に取り組んでいます。

本校のグローバル・リサーチは、空間力をもつて見えない境界線・国境」を可视化するプロジェクトで、一翼として、台頭するアジアとの繋がりを高校生の視点から考察・提言することを目的としています。

アジア研究では、次のことをポイントに学びます。

★他者を理解する「様々な地理・歴史・現在の状況について学ぶ。『空間力』実践の場として、アジアといふ空間における日本の位置づけを過去から現在にかけ

て学んでいく

★関係を構築する「共生社会」の理想の下、アジアとの新しい関係性について考える。新たな関係性構築に向けて、高校生としてできることを認識し、提言を行なう

★提言を実践する「グローバルリーダー」として、交流を開始し、相互理解の下、関係性を築く。学校交流、生徒交流などの相互交流を通して、提言を現実のものとする行動を積み重ねる

これらを受けて、本校が

3年前から取り組んでいる「アジア研究」は課外活動として行われ、東京海洋大学の学生と共に生徒の指導に当たっています。

今年は4月14日、「アジア研究」の紹介を行うオリジナル「シンガポール／マレーシア研究」「台湾／中国研究」「タイ／ベトナム研究」研修が小松俊明教授が、同

学グローバル教育研究推進機構の小松俊明教授が、同

大学の学生と共に生徒の指

導に当たっています。

今年は4月14日、「ア

ジア研究」は課外活動として行われ、東京海洋大

学の学生と共に生徒の指

導に当たっています。

今年は4月14日、「ア

ジア研究」は課外活動

として行われ、東京海洋大

学の学生と共に生徒の指

導に当たっています。

今年は4月14日、「ア